

集団の一員としての自己の役割を自覚し、積極的に責任を果たす態度を育成するための  
委員会活動

日立市立助川小学校

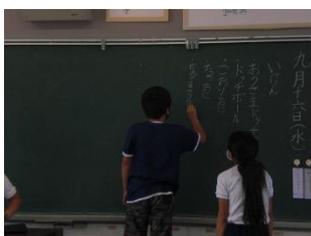
## 1 はじめに

本校は、委員会活動が活発である。常時活動以外にも、委員会ごとに特性を生かし、工夫を凝らした活動が行われている。だが今年度は、児童集会が大幅に制限され、実践テーマに沿った児童の育成機会を委員会ごとに設ける機会が少なかった。そこで、今年度数少ない実践の中から、「縦割り班活動」・「さわやかマナーアップ」について報告をする。

## 2 実践事例

### (1) 縦割り班活動

「あおぞら班」という名称で、居住している地域ごとに1年生から6年生までを14グループに分けた縦割り班活動がある。この縦割り班は、地域の方々と交流をする際にも活用され、土曜授業日には「学校子ども会」として活動している。年度初めに全体で集まり、6年生の班長・副班長を中心に隔月の最終水曜日の昼休みに何をやるかを計画し、遊んでいる。遊びの内容は、鬼遊びやドッジボール、だるまさんが転んだなどである。今年度は2学期からの実施となった。混乱することなく児童たちは普段とは異なるメンバーと遊ぶことを毎回楽しみにしている。また、班長・副班長となった6年生は下級生の面倒をよく見ており、課された責任を果たそうと意欲的に取り組んでいる。



### (2) さわやかマナーアップ

さわやかマナーアップは、運営委員会の児童が月曜日以外の毎朝行っている。その他、道徳部と連携し年間計画のもと学級担任以外の教員や保護者も参加し、あいさつ運動を実施している。



## 3 成果と課題

- ・どちらの行事も、限られた中で、異年齢集団として活動できたことで、児童同士の理解が深まり、大変よい結果となった。6年生にとって最高学年としての自覚を深め、良い体験となった。
- ・今まで行っていた児童集会がコロナ禍のため実施困難となり、今後どのように特色ある委員会活動を計画・実施していくのか、検討していく必要がある。